

人生の後悔

動画リンク: https://youtu.be/dC_elQZqagl

■自己紹介

私の名前は、浜野政雄です。年齢は83歳になります。
私は、小さな町で生まれました。町の真ん中には、大きな川が流れていました。子どものころは、その川でよく魚をとりました。川の水はとても澄んでいて、足が見えるくらいでした。夏になると、友達と一緒にびしょぬれになって遊んだことを、よく覚えています。私の家は、木でできた古い家でした。すき間風が入ってきて、冬は少し寒かったです。でも、静かで落ち着く家でした。今のように何でも整った家より、少し不便でも、心がほっとする家のほうが好きでした。
町の人たちは、みんな優しくかったです。誰かが困っていると、黙って手を貸してくれるような人が多かったです。今でも、その優しさを思い出すと、あたたかい気持ちになります。私の人生には、楽しいことがたくさんありました。でも、後悔したことも、もちろんあります。今になって、「あのとき違う選択をしていたら、どうなっていただろう」と思うこともあります。
これから、私の人生について少しずつお話ししていこうと思います。

■高校に行けなかった私が学んだこと

私が小学生のころ、学校に行くのがとても楽しみでした。友達と遊んだり、新しいことを学んだりするのが好きだったからです。でも、中学生になるころ、大きな変化がありました。
家がお金に困るようになったのです。父が怪我をして、長い間働けなくなりました。母は毎日一生懸命働いていましたが、家族を支えるには足りませんでした。
私は、中学校を出たあと、高校には行けませんでした。進学するにはお金がかかるからです。友達は高校に行きましたが、私は違う道を選ばなければなりませんでした。
そのころの気持ちは、今でも覚えています。寂しかったです。友達と毎日会えなくなったこと、自分だけ違う場所にいるような気がしたこと。とてもつらかったです。
でも、働くことで学べたこともあります。最初の仕事は、町の工場でした。靴を作る仕事です。朝早くから夜まで働くのは大変でしたが、自分でお金をかせぐことの大切さを知りました。人にたよらず、自分の力で生きること、そこで学びました。
あのときは「どうして自分だけ」と思っていました。今は少し考えが変わりました。学校に行けなかったことは残念でしたが、早くから社会に出たからこそ、出会えた人や経験もあります。
人生には、いろいろな道があります。まっすぐな道だけが、いいわけではありません。私は、自分の歩いた道を、今では大切に思っています。

■あのとき言えなかった『ごめん』

若いころの私は、今よりもずっと頑固でした。自分の考えが正しいと思いこんでいて、人の話をよく聞いていませんでした。だから、家族とすれ違うことがたくさんありました。いちばん覚えているのは、父と喧嘩した時のことです。私は高校に行けずに働いていましたが、ある日「もっと勉強がしたい」と父に言いました。でも、父は「そんなことを言うなら、家を出ていけ」と言いました。

そのとき、私はなにも言わず、家を出ました。本当は「ごめん」と言いたかったんです。でも、負けたくないという気持ちが強く、言葉が出ませんでした。

何年かたって、私は少しずつ仕事にもなれて、生活が安定してきました。ふと、父に会いたくなりました。でも、父はもう病気で、長く生きられないと言われました。

病院で会った父は、とてもやせていました。私が来たことに気づくと、小さな声で「元気か」と聞きました。私はそのときやっと、「あのときはごめん」と言うことができました。父はゆっくりとうなずいてくれました。

そのあと、父はすぐに亡くなりました。最後に話せてよかったと思います。でも、「もっと早く伝えればよかった」という思いは、今も心の中にあります。

人は、思っているよりなかなか言えないことがあります。「ごめん」や「ありがとう」は、シンプルだけれど大切な言葉です。素直に伝えることは難しいですが、できるだけ早く伝えたいと思うと、私は思います。

■大きな間違いをした日のこと

私が30歳のころ、大きな工場で働いていました。仕事はきびしかったです。まじめに働けば、少しずつ任されることが増えていきました。ある日、私は工場の大事な仕事を任されることになりました。たくさんの人の作業をまとめる役割です。

初めてのことで、私はとても緊張していました。でも、誰にも「分からない」と言えませんでした。聞いたら、自分の力がないと思われるのが怖かったです。

その日、私が出した指示が間違っていて、機械の動きを止めてしまいました。工場は半日近く止まりました。会社には大きな損失が出て、上司にとっても怒られました。

私は、自分のせいでこんなことになったと思います。情けない気持ちになりました。もうここで働けないとまで思いました。その日の帰り道、ひとりで泣いたことを覚えています。

次の日、私はおそろおそろ工場に行きました。頭を下げて、心から謝りました。そのとき、年上の先輩がこう言いました。「間違いを認めて、逃げずに向き合ったことが何より大切なんだよ。」

その言葉に、私は本当に救われました。間違いは消せません。でも、そこから逃げなければ、またやり直せるということを、そのとき知りました。

それから私は、人に聞くことを怖がらなくなりました。「知っているふり」は、一番よくないと気づいたからです。

間違いは、誰にでもあります。大切なのは、その後どうするかです。私はこの失敗から、本当に多くのことを学びました。

■夢を諦めたとき

私は子どものころ、絵を描くのが大好きでした。毎日ノートに動物や風景の絵を描いて、いつか絵描きになりたいと思っていました。仕事にしないでいいから、ずっと絵を描きつづけたいと心の中で思っていました。

でも、現実とは違いました。学校を出てすぐ働くことになり、毎日の生活に追われるうちに、いつのまにか絵をかく時間がなくなっていきました。仕事が終わるころには疲れていて、スケッチブックを開く気力もありませんでした。

20代の終わりごろ、「やっぱり、絵を仕事にしたい」と、一度だけ本気で考えたことがあります。でも、その時すでに結婚して、家族がいました。お金も必要でした。わがままは言えないと思いました。

そして私は、絵描きになる夢を諦めました。その後も、心のどこかでずっと引きずっていました。「あのとき、違う選択をしていたらどうなっていただろう」と考えることもありました。

ただ、ある日気づいたのです。絵を描くことだけが「夢」ではなかったと。私はその後も、真面目に仕事をして、家族を支えることができました。それもまた、自分にとって大切な人生だったのだと思えるようになりました。

夢を諦めるのは、寂しいことです。でも、それで人生が終わるわけではありません。他にもたくさんの出会いや経験があります。そして、いつかまた絵を描きたいと思えば、始めることもできます。

自分が選んだ道を、間違いだと思わなくなったとき、私はやっと自分を受け入れることができました。

■違う国の人と出会って、変わったこと

私が50歳のころ、働いていた工場に、違う国から来た人たちが入ってくるようになりました。最初は、言葉も文化も違っていて、どう接していいのかわかりませんでした。どんな言い方をすれば伝わるのか、毎日考えながら話していました。

ある日、新しく来た男の人と一緒に作業をすることになりました。彼は日本語があまり上手ではなく、私の言ったことがうまく伝わらないことが何度もありました。私もイライラしてしまい、きつい言い方をしてしまったことがあります。

その日の帰り道、彼がぼつりと「すみません。日本語、まだ難しいです」と言いました。そのとき、はっとしました。私は自分の言葉が伝わらないことばかり気にして、相手がどれだけ頑張っているかを見ていなかったのです。

それから、私はゆっくり話すようにしました。言葉だけでなく、身振りや目を見て伝えるようにしました。すると、少しずつ心が通じるようになっていきました。分からないところは、一緒に考えることで、お互いに学び合えるようになりました。

ある日、彼が「日本の人は静かだけど、優しいですね」と言いました。とても嬉しかったです。そして、自分が日本人であることに、あらためて誇りを持ちました。

違う国の人と出会うことで、私はたくさんのことを学びました。言葉が違っても、人の気持ちは伝わります。そして、心を開けば、国が違っても友達になれるのだと知りました。

■今だからわかる『毎日の大切さ』

若いころの私は、毎日が忙しくて、ただ「頑張らなければ」と思いながら生きていました。朝から夜まで働いて、休む日も少なく、いつも時間に追われていました。そのころは、毎日を「こなす」ことが大事だと思っていました。でも、年をとって、仕事を引退してから、初めて気づいたことがあります。それは、「なんでもない日」がいちばん大切だということです。朝、目が覚めること。温かいご飯を食べること。道ばたに花が咲いているのを見て、きれいだと思うこと。そういう小さな出来事が、心を豊かにしてくれます。昔は、「もっと大きなことをしなければ」「なにかを達成しなければ」と思っていました。でも、今はそう思いません。天気がよくて、ゆっくり歩けるだけでも、幸せだと思えるようになりました。病気で入院したことがあります。そのときは、病室の小さな窓から見た空の色が、なぜか心にしみました。「外に出て歩きたいな」と、心から思いました。それから、毎日の生活をもっと大事にするようになりました。大きなことをしなくてもいい。すごいことがなくてもいい。大切なのは、自分の目で見て、自分の心で感じることで、今は思います。今は、一日一日が宝物のように感じます。ご飯がおいしい、空がきれい、友達と話せる。そんな当たり前のことを、当たり前だと思わない。それが、今の私の幸せです。

■私が伝えたいこと

これからまだ長い人生を歩んでいく皆さんへ、少しだけ立ち止まって聞いてほしいことがあります。私は80年以上生きてきました。その中で、楽しかったことも、辛かったことも、たくさんありました。でも、今思うのは、どんな日も全部大切だったということです。人生には、思い通りにならないことがたくさんあります。間違えることもあるし、人を傷つけてしまうこともあります。立ち止まって、なにもできない日もあります。でも、それでいいのです。間違えても、立ち止まっても、大丈夫です。人はそこから学んで、少しずつ強くなっていくものです。私が若いころは、「失敗してはいけない」と思っていました。でも、今は思います。「失敗してこそ、気づけることがある」と。やってみたいと思ったことがあるなら、少しだけでも動いてみてください。全部できなくてもいいのです。少しでも前に進めば、それだけで変わります。人と比べなくてもいい。あなたには、あなたの時間があります。自分のペースで進めばいいのです。そして、自分のことを大切にしてください。自分の気持ちに正直になって、自分を少しずつ好きになってください。時間がかかってもかまいません。人生は、まっすぐじゃなくてもいいのです。間違った道にも、楽しいことや、美しいものがあります。それに気づけたとき、きっと人生がもっと好きになります。これを聞いてくれたあなたが、いつか「今の自分が好きだ」と思えるようになることを、私は心から願っています。



Japanese-listening-SUSHI

